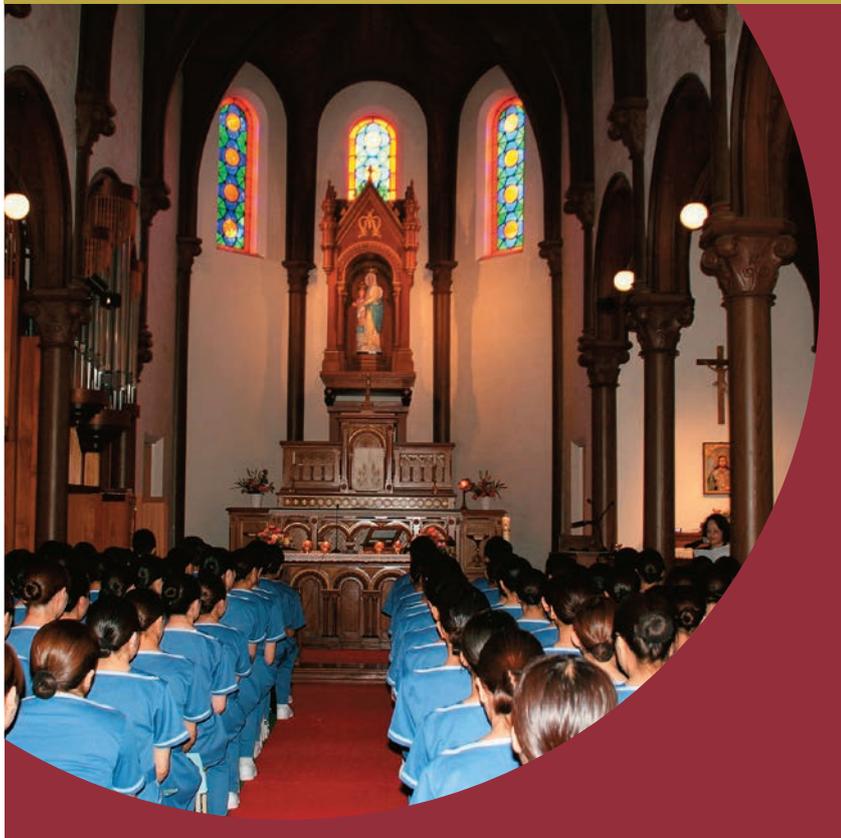


MADONNA

St.Mary's College Campus Letter

聖マリア学院大学キャンパスレター [マドンナ]
Vol.15



「国際交流基金を設けました」

聖マリア学院大学の特色のひとつとして、設立母体の聖マリア病院から継承されたものに国際看護教育があります。聖マリアグループ共通の設立理念であるカトリックの愛の精神の具現化として、既にグループ内で実施されてきた国際医療協力は、現在までに派遣国は計33カ国、受入国は計100カ国に及んでいます。

本学としてもこれらを実践する為に、国際交流事業を推進して来ましたが、姉妹大学等の交流施設は米国、韓国、タイ、フィリピンの4カ国12施設に及んでいます。今年はフィリピン・サンパブロ市のカノッサ大学と姉妹大学提携を結びました。同国においては既に、交流実績があるブリハン地区のカノッサ・センターがあります。本学の系属校である明光学園の設立母体であるカノッサ修道会により運営されており、無償の保健医療の提供の他、就学・就業支援を地元の方々の方々の篤志活動も得て展開されています。本学の国際看護コースの学生は、同地にてフィールドスタディを実施しております。

さて今年度、念願の国際交流基金を設けることが出来ました。例えば、本学の学生がこのフィールドスタディを、同国のカノッサ大学の学生と一緒に実践出来れば、加えてその際に同じ理念に基づく韓国のカトリック大学の学生海外ボランティア活動（韓国のカトリック系大学総長協議会が策定したフランシスコ・プログラムのひとつの事業）と協働するなどすれば、より実践的なグローバル人材の養成教育の場となるのではないかと考えています。これらの活動を含めて、学生諸君の国際交流活動にこの国際交流基金が資することが出来るよう願っております。



学長 井手 三郎

profile

筑波大学大学院修士課程医科学研究科医学専攻修了。博士(医学)九州大学。聖マリア学院短期大学・教授。学校法人聖マリア学院・事務局長。学校法人聖マリア学院・理事長(平成16年8月～)、聖マリア学院大学・教授(平成18年4月～)、聖マリア学院大学大学院・教授(平成22年4月～)。平成27年4月1日より現職に就任。



聖マリア学院大学の教育理念

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育研究を行う、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

聖マリア学院大学の教育の特色

- 「人間の尊厳・生命を尊重する倫理、生命倫理教育」による倫理的判断能力／専門職としてのケアリング／ヒューマンケアの実践能力の育成
- シスター・カリスト・ロイ博士提唱の「ロイ適応看護モデル」に基づく科学的思考と問題解決能力の育成
- 聖マリア病院とともに長年の国際保健医療協力を連携して実践している「国際看護学」の教育

CONTENTS

目次

- 巻頭言
- 1 「国際交流基金を設けました」
- 3 特集「JICA 青年研修事業
アフガニスタン医療従事者の研修レポート」
- 5 シリーズ⑤「大学に求められるもの」
- 6 CAMPUS TOPICS
1号館「感謝の式」を開催しました
公開講座のご報告
- 7 CAMPUS TOPICS
第10回「マリア祭」を開催しました
- 8 CAMPUS TOPICS
「やすらぎの集い」が行われました
看護学部1年生の「召命のつどい」が行われました
- 9 CAMPUS TOPICS
学部3年生 病院の「クリスマス会」でハンドベルを披露
- 10 平成27年度
外部研究費等の採択状況について



アフガニスタン医療従事者の研修レポート

この度、独立行政法人国際協力機構（JICA）より、2015年度の青年研修事業「アフガニスタン／母子保健コース」を受託し、アフガニスタンより助産師等の医療従事者18名の研修員を迎え、平成27年11月6日～18日の期間で開講しました。

母子の保健管理についてなど 様々なプログラムを実施。

アフガニスタンは、妊産婦死亡率など、ドプロダクティブヘルスに関する指標が世界的にも劣悪な国のひとつであり、長引く政情不安を背景に、特に女性の医療従事者不足が課題のひとつとなっています。

研修期間中は、医療行為としての母子保健管理の実際の他、妊産婦を取り巻く様々な環境に関する事例検討、また地域事情に応じた子育て支援など、研修員のニーズ、理解度を測りながらプログラムが進捗しました。

マリア祭にて看護学生との 交流事業も行われました。

また、本学の学院祭開催に合わせ、九州・沖縄の看護系大学連携組織との共同企画として、研修員と看護学

生との交流事業（ナーシングキャリアカフェ）を開催することができました。「ナーシングキャリアカフェ」では、ガ

ウハル医師より、アフガニスタンの医療保健システムの現状について発表されました。目下の課題については、内戦による不安定な治安や、道路などの不整備でインフラが整っていないことといった環境面、医療従事者の不足、そして患者の医療に対する意識の低さもあるとのことでした。発表後には参加者から、医療従事者の教育事情についてなど質問も多数寄せられ、学生の学びも多かったことと思います。

研修員の皆さんは、母国アフガニスタンの地で其々に臨床に戻られていることと思います。研修での学びが、ひとつでもふたつでも、彼女達のこれからの仕事や人生に、何らかの意味を持つものになったとすれば、研修を受託した本学にとって望外の喜びです。



- 1 学院祭「マリア祭」での本学の学生によるフィールドスタディの発表に、時おり写真も撮りながら、真剣に耳を傾ける研修員の皆さん。
- 2 「ナーシングキャリアカフェ」では、本学や本学以外の学生の質問に、多くの研修員が自身の経験も交えながら答えてくれました。
- 3 学院祭「マリア祭」の模擬店にて、からあげをほおぼりながらホッとひと息。学生たちとの交流も楽しい時間です。
- 4 学院祭「マリア祭」で行われた公開講座に参加。夫婦間のコミュニケーションについてさまざまな意見交換が行われました。
- 5 「ナーシングキャリアカフェ」での発表。アフガニスタンの医療の現状を、死亡率など詳細なデータも交えながら説明されました。



今回の研修によって得た知識を、アフガニスタンの医療改善に活かしていきたいと思っています。



産婦人科医師
Ms. MUSLEH Gawhar

Interview

研修員の産婦人科医師 Ms. YOUSOFZAI Bibi Sarah と、助産師 Ms. SAIFY Suraya に、今回の研修についてお話を聞きました。

Q1 | 今回の研修で印象に残ったことを教えてください。

●学校や職場、病院、どんな場面でも日本では人間をすごく大切に、お互いを尊重していて、素晴らしいと思います。とても勉強になりましたし、感動しました。
(Ms. YOUSOFZAI Bibi Sarah)

●「青峰保育園」と「子育て交流プラザくるるん」の見学です。子ども達が生き生きと、豊かな環境の中で育てられていて、子ども同士も親同士の関係も友好的だと感じました。私たちの国ではこのような保育園やシステムはほとんどありません。(Ms. SAIFY Suraya)

Q2 | 学院祭「マリア祭」で看護学生と触れあった感想をお聞かせください。

●学生さんと近くの席になることもあり、皆さんがどのような活動をされているのか実感することができました。また、学生さんの発表では、日本だけでなくフィリピンなど、全く違う国の状況についても知ることができてよかったです。
(Ms. YOUSOFZAI Bibi Sarah)

●「ナーシングキャリアカフェ」では、井手三郎学長、矢野正子先生からのお話もお聞きでき、本当にとても貴重な時間で、大変光栄でした。(Ms. SAIFY Suraya)

Q3 | 聖マリア学院大学の学生へメッセージをお願いします。

●今後、今よりもっと友好的な関係になって、お互いの経験から学ぶことができればと願っています。
(Ms. YOUSOFZAI Bibi Sarah)

●アフガニスタンに比べ、環境も技術も大変整ったなかで仕事ができるかと思います。一所懸命頑張って、よりよい保健サービスを提供できるようになってください。
(Ms. SAIFY Suraya)

シリーズ15 「大学に求められるもの」 看護を大学で学ぶとどうなるのか

看護は学問のみではないけれど、質の高い看護を提供するように私たちに学ぶ「使命がある」※1

看護を大学で学ぶことの意味について改めて考えたとき、前述した恩師の言葉に導かれ、その意味は、看護を必要とする方の心と身体、魂に寄り添い、その方にとって最善のケアを捧げるためであるという考えに至りました。

看護という学問の特性に関しては、「看護職の教育に関する声明」※2において、次のように言及されている箇所があります。「中略」看護学がめざす目的は、その人が常に尊厳をもって自分の意思を大切にして生活し、生き抜くことができることにある。看護学は対象となる人の価値観、習慣、考え、感じ方をできる限り理解し、その上でその人が自分の力で自身のめざすQOL(Quality of Life 生活の質)を目標とし、日常生活を営んでいくことができるように、また自分自身のケアができるよう、その方法をともに探究する」。

看護の対象は人間です。人間とは、すべて理解し尽くすことのできない人知を超えた存在であり、かつ唯一無二の尊い存在です。

看護者は、そのような人間を対象に、心と身体、さらに魂の側面からより深く理解し、その時、その人が求める個のケアを創造します。こうした理由から、看護を学問としてより深く学ぶことには意味があり、また生涯を通して学び続けることが必要と言えます。

本学の学生方は全員、既にケア者としての「愛」という賜物(Gift)、そして召命(vocation)と使命(mission)を授かり入学なさいます。そして4年間を通して看護の「知」を学び蓄えます。そして卒業後は、臨床で対象となる方に出会い、「愛」にもとづく感性と、それまで蓄えた「知」をいかして、その方にとって最善の「技」を創造し捧げるのです。看護の対象である人間がとても深遠で尊い存在であるが故に、看護者が学ぶ「知」は無限です。よって私たち看護者志すものは、無限の知にたいして、何のために(目的)、何を(内容)、どのように学ぶか(方法)を、探求し実行することが求められ

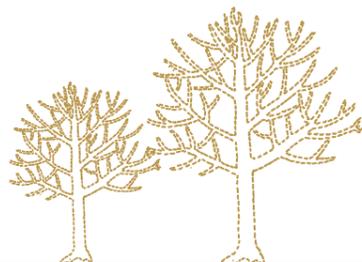
るでしょう。

生涯を通して学びつづけるための忍耐力と原動力、それは与えられた「使命」を信じ、願うこと(祈り求めること)であり、そのとき私たちは、確かな御守りと御支えを身近に感じることが出来ます。そのひとは、すぐそばに居てくださる他者、同志の存在です。聖マリア病院・聖マリア学院創設者、井手一郎先生は「暖かい、開かれた心を持つ人になつて下さい」という言葉を私たちに遺してくださいました。他者に対して開かれた心と暖かい心を持ち、互いに支えあうとき、使命を果たすためのより広く深い知と最善の技が与えられることを実感できます。

聖マリア学院大学という共同体において、私たち一人ひとりが与えられた場と機会において、愛という賜物を互いに保ちつつ、看護の知をより深く学ぶことが出来ますように。また、これらの愛と知をベースにした技を通して、ケアを必要とする方々のもとに行き、常に共に歩むという使命を果たしていけるように、心から願ひ、祈っております。

桃井 雅子

profile
助産師
聖路加看護大学博士
後期課程修了後、2008年より本学教員に就任。



1号館「感謝の式」を開催しました

聖マリア学院大学1号館は、その名の通り、本学の校舎の中で最初に建てられたものです。本学の前身である聖マリア高等学院(昭和48年の

始まりから、看護学生・介護学生の学び舎として数多くの同窓生の思い出が詰まった建物です。しかしながら、このたび解体工事が行われることになり、9月11日午後、この思い出深い1号館に関係者一同が集まり、「感謝の式」を行いました。

カトリック久留米教会の森山神父様による司式のもと、聖書のごとくに

耳を傾け、これまでいただいた恵みを思い起こし、感謝の祈りを参列者一同におささげいたしました。

「イエスキリストという既に据えられている土台を無視して、だれも他の土台を据えることはできません。」(1コリント3:11)

建物の姿はなくなりましたが、学院の土台となつているキリストの愛は絶えることはありません。そのことに希望と信頼をおき、これからも歩み続けることができますように。



公開講座のご報告

聖マリア学院大学では毎年、地域の人々と協同し健康で安心して暮らせる「ケアリング文化の創造」を目的として、公開講座を開催しております。2015年度は「地域と共に考えるケアリングサイエンス」と題して

行いました。各講座とも熱心に受講される方も多く、盛況のうちに開催することができました。2016年度も医療・健康と地域をテーマにした講座を開催いたしますので、皆様方のご参加をお待ちしております。

聖マリア学院大学 公開講座「地域と共に考えるケアリングサイエンス」

日時・場所	演題(講座内容)	講師
10月11日(日) 石橋文化センター(小ホール) [久留米市野中町]	「老いを楽しく生きる ～こころの処方箋～」	【講師】萬年内科医院 元院長 萬年 孝哉 先生 【座長】聖マリア学院 学院長 井手 信 先生
11月14日(土) 大学内[久留米市津福本町]	「パートナーとのつきあい方 ～よりよい関係性のために～」	【講師】聖マリア学院大学 助教 川口 弥恵子 先生
11月14日(土) 大学内[久留米市津福本町]	「生涯現役 胆道外科医」	【講師】聖マリア学院大学 特任教授 中山 和道 先生
12月8日(火) 一番街プラザ(ほっとステーションマリア) [久留米市東町]	「イライラしない自分になれる ～怒りのマネジメント術～」	【講師】聖マリア学院大学 講師 白井 ひろ子 先生
12月12日(土) エーワンサポート久留米 [久留米市東町]	「私の心臓を知る」	【講師】聖マリア学院大学 准教授 鶴田 明美 先生



引用文献
※1) 平林優子. “子どもは人として尊ばれ、社会の一員として重んぜられる—常葉先生の授業から—”. 神様からの賜物 常葉恵子先生と小児看護. 常葉恵子先生と小児看護編集委員会編. 広研印刷. 2004. p.82.
※2) 日本看護系大学協議会. “看護職の教育に関する声明”. 2008.
<http://www.janpu.or.jp/umin/kenkai/seimei.html>. (参照2016-01-20).

第10回「マリア祭」を開催しました

2015年11月14日(土)、第10回「マリア祭」が開催されました。前日から雨が降り続くあいにくのお天気にも関わらず、ご来場くださった方々に感謝申し上げます。マリア祭の様子をほんの少しですが、写真にてご紹介いたします。



体育館では、恒例「ミスマリア」コンテスト(左)やテーマ企画「私たちのからだと看護の可能性」(右)が行われました。



たこ焼きやクレープ、からあげなど、さまざまな食べ物並び、学外の方からも大人気だった模擬店。



体育館で行われたビンゴ大会は大盛り上がり。



5号館ではボランティアサークル「ふいりあ」による、東北ボランティア報告会や、フィリピンで行われたフィールドスタディの発表が行われました。



学院祭実行委員長 原 健成さん
学院祭の準備で企業や地域の方々との交渉など、初めてのことも多く大変でしたが、やりがいも感じました。看護師として社会に出ても、この経験を活かせたらと思います。

「やすらぎの集い」が行われました

平成27年10月3日(土)、さわやかな秋晴れの下、聖マリア病院のルルドの泉広場にて、聖マリア病院「やすらぎの集い」が行われました。ご療養中の方々の「ここからだのやすらぎ」を願って、患者さんご家族と一緒に祈る集いです。故マグリッパ・リッカルド神父様が病院チャプレンとして着任された2001年秋から始められ、今年で15回目となります。

この春、4年生は卒業を迎えます。「すべての人は神様に愛されている」福音のメッセージを証しする看護師となって、いのちに奉仕することの恵みと導きを祈り続けたいと思います。



大学入学から半年が経ち、学生生活にも慣れ始め、看護技術の演習が始まる頃です。「いのち」について考え、神の恵みのうちに「いのちの奉仕者」として歩む決意をします。召命のつどいを終えた学生さんの感想を紹介します。「実習を着て名前を呼ばれた時、自分はこれから看護師への道を歩んでいくのであって、それだけの責任を持てる人になろうということを再確認できました。厳粛な空気の中、大人数がろうそくの火をともし並んでいる姿は本当に美しいものでした。これからこの式で自分の心の中に決意した思いを忘れず



看護学部1年生の「召命のつどい」が行われました

勉学に努めていきたいと思いましたが、慌ただしさの中、なんとなく落ち着かないなど感じた時は、いつでも雪の聖母聖堂にお立ち寄りください。召命のつどいで過ごした時間を思い起こして、新たな気持ちにしていきたいでしょう。

この集いに看護学部4年生32名と教職員も参加させていただきました。司式の森山神父様は「希望」とは安心して、安らかに待つことである」という定義を紹介し、「『希望』をこのようにとらえれば、たとえ望まない出来事でも受け入れられるのかもしれない。思いもかけない出来事に巻き込まれてしまったときでも、素直に静かにそれを受け止める恵みが私たちの人生で与えられる。」「神は私たちを忘れず、守ってください」と一人ひとりの歩みを励ましてくださいました。

学部3年生 病院の「クリスマス会」でハンドベルを披露

10月の聖ルチア病院での精神看護学実習では、病院スタッフをはじめ患者のみなさんに大変お世話になりました。たくさんの方のサポートと温かい言葉をかけて頂き、本当に充実した2週間を過ごさせていただきました。そのため、実習最終日には患者さんとお別れが寂しくて仕方ありませんでした。そのお礼ができればと思います。マリアンヌ with ミツツというグループを結成し、クリスマス会でハンドベルの演奏をさせていただきました。また患者さんに会えること、お礼を演奏という形で伝えられることにとてもワクワクしながら実習の合間を縫って「サンタが町にやってくる」と「となりのトトロ」を練習しました。演奏後、皆さんからたくさん拍手を頂きました。また、縁あって聖マリア病院の精神科病棟でもハンドベルの演奏をさせていただくことができ、とても思い出に残るクリスマスになりました。(中村光)



1 2 「聖ルチア病院」での演奏の様子。
3 「聖マリア病院」精神科病棟にて。

平成27年度 外部研究費等の採択状況について

本学では、教育への還元を前提とした各専門領域における学術研究の推進方策の「環」として外部研究資金の獲得を奨励しているところです。独立行政法人日本学術振興会を介した科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野に亘り、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を進展させることを目的とする「競争」

的研究資金」であり、独創的先駆的な研究に対する助成を行うものです。また、民間企業等との共同研究を行う中で、本学での研究活動に対して企業、団体から様々な形で協力支援を受けています。平成27年度の外部研究費に関する採択状況については左記のとおりです。



平成27年度 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)等交付状況

採択者氏名	事業名	研究課題名
中尾 友美	基盤研究(C)	タイムマネジメントスキルを活用した有識糖尿病患者への教育プログラムの開発と評価
松原 まなみ	挑戦的萌芽研究	演劇を用いたシミュレーション授業と教材開発に関する研究
小森 あき奈	若手研究(B)	倫理教育教材の開発につながる臨床看護師のMoral Residueに関する研究
松原 まなみ	基盤研究(B)	口唇口蓋裂児の口腔機能発達を保障する哺乳具の開発と療育支援プログラムの構築
日高 艶子	基盤研究(C)	半側空間無視の代償行為の獲得を促す主意的役割を用いた看護介入の効果
田中 千絵	基盤研究(C)	医療が必要な障害児のよりよい地域生活支援のための「医療的ケア必要度スコア」の開発
安藤 満代	基盤研究(C)	がん患者に対するアートセラピーの効果とプログラム開発に関する研究
秦野 環	基盤研究(C)	複合的人道危機から逃れた難民を受け入れたことによって生じたケニア女性の健康問題(期間延長)
小浜 さつき	基盤研究(C)	自覚性低下の看護介入プログラムに関する研究ーゲームを活用した介入の効果ー
濱野 香苗	基盤研究(C)	地域在住高齢者のQOL充実へのインフォーマルサポートの活用に関する研究
田村 真由美	基盤研究(C)	がんの先端医療を受けている患者への支援システムの構築
秦 朝子	若手研究(B)	一連の看護行為における手指衛生のタイミングに関する研究
渋谷 暁春	若手研究(B)	特別養護老人ホームで働く職員の手指衛生行動と認識に影響する要因の検討
塩沼 望美	研究活動スタート支援	心リハを行う心不全患者に対する自己管理能力維持のための看護介入による効果
日高 艶子	基盤研究(A)	卒後1年目の看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究(福岡県立大学)
石本 祥子	基盤研究(A)	卒後1年目の看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究(福岡県立大学)
小浜 さつき	基盤研究(A)	卒後1年目の看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究(福岡県立大学)
藤堂 省	基盤研究(A)	体外誘導免疫制御性リンパ球を用いた細胞治療による免疫寛容誘導に関する研究(北海道大学)
日高 艶子	基盤研究(B)	看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究(防衛医科大学校)
安藤 満代	基盤研究(B)	看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究(防衛医科大学校)
谷 多江子	基盤研究(B)	看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポート・スペクトラム構築に関する研究(防衛医科大学校)
日高 艶子	基盤研究(C)	自覚性低下の看護介入プログラムに関する研究ーゲームを活用した介入の効果ー(聖マリア学院大学)
小浜 さつき	基盤研究(C)	半側空間無視の代償行為の獲得を促す主意的役割を用いた看護介入の効果(聖マリア学院大学)
松尾 ミヨ子	基盤研究(C)	タイムマネジメントスキルを活用した有識糖尿病患者への教育プログラムの開発と評価(聖マリア学院大学)
松原 まなみ	挑戦的萌芽研究	妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究(自治医科大学)
井手 三郎	厚生労働省科学研究費補助金(研究分担者)	新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
藤堂 省	日本医療研究開発機構委託研究開発(研究代表者)	制御性T細胞治療による臨床肝移植における免疫寛容誘導法の多施設共同研究
鷲尾 昌一	長寿医療研究開発費の研究事業(研究分担者)	Zarit介護負担尺度日本版(J-ZBI)による介護負担評価標準化による有用性の向上
桃井 雅子	日本助産学会研究助成奨励研究費(研究代表者)	不妊治療後の妊娠褥婦に関わる看護師・助産師のための教育プログラムの評価

在学生、並びにご家族のみなさまへ

◎進級・留年、成績状況、履修状況等の通知について

在学生並びにご家族の方へ対し、所定の時期において、進級・留年の決定や、成績状況、科目履修状況等の通知をお届けしています。学部等の課程別に対象や時期は異なっていますが、ご家庭におかれましても、日頃より学校生活に関するお話の機会を持っていただき、側面からの学修支援に、ご理解とご協力をお願いいたします。

◎カリキュラムの履修要件にご留意下さい

授業科目の履修に際しては、特に科目登録時における手続き漏れ等が無いよう、学生便覧を参照の上、卒業までに必要となる授業科目(必須科目・選択科目)、単位数について理解した上で、各自の責任において計画的に履修しましょう。

- ・授業科目に関しては、各々の開講年次や、1年間に登録できる科目単位数の上限が定められています。
- ・上級学年に進級するためや、実習科目を受講するためには、予め設定されている所定科目を事前に履修していることが要件となります。

◎「保健師」国家試験(選抜制)の受験希望者の単位履修について

～対象:看護学部“2012年度以降の入学生”～
保健師国家試験の受験資格を得るためには、卒業に必要な単位数に加え、3年次以降に開講される“地域看護学”に関する所定の授業科目を修得する必要があります。履修者は学内選考により決定することとし、履修申込み手続きは、2年次後期に行う予定です。保健師国家試験を受験希望の方は、手続き漏れが無いよう、特にご留意下さい。



「聖マリア奨学金」制度について(ご案内)

聖マリア学院大学の主たる実習施設であり、運営母体である“聖マリア病院”との更なる協働的・継続的な看護教育に資するため、平成28年4月より、「聖マリア奨学金」制度を運用することとなりましたので、ご案内いたします。

金額	年間の授業料相当額を上限
返還義務	卒業時に一括返還。但し、卒業後、聖マリア病院もしくは同病院グループ各機関・施設に就職した場合は、所定の条件下で月賦返還。
貸与期間	修業年限を上限
採用人数	若干名
貸与条件	平成28年4月以降入学者(看護学部、助産学専攻、大学院) 家計状況が一定の審査基準を満たしている。 原則、他の奨学金との併用はできない。 ※半年毎に継続の有無を確認し、審査を経て採否を決定。

※入学後に応募説明会を開催します。

▼モノレールはギリシャ語の「111モノ」と路線(レール)からきており、2つの路線を走るという意味である。モノレールは「独り言」という意味で、「ピンからキリまで」のピンも「1」のこと。本学学生ならば知っているだろうカードゲームのUNOはスペイン語イタリヤ語の「ウノ1」であり、元はラテン語の「ウヌス」から来ている。

▼1号館の解体が始まっている。その名の通り、本学で一番最初に出来た建物であり、ここから本学の歴史が始まったといっても差支えない。また、読まれている方でも当時通っておられた方もいらつしやるのではないだろうか。何らかの形で存続の可能性もあった中、あえて解体を選んだ以上、跡地には1号館に携わった全ての方の想いが集まった「モノ」になることを切に願う。

(MT)



St. Mary's
College
聖マリア学院大学

2016年2月発行
聖マリア学院大学キャンパスレター[マドンナ]
発行/聖マリア学院大学
〒830-8558 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)7271 FAX.0942(34)9125

※本誌掲載の写真・図版・記事などの無断使用・転載・複製を禁じます。